

今回は、半導体市場予測とHDD(Hard Disk Drive)の動向についてお伝えします。

## 半導体市場予測について

### ◆ 2025年秋季予測

世界半導体市場統計(WSTS)が2025年12月2日に発表した、'25年秋季の半導体市場予測によると'25年の世界半導体市場は前年比22.5%増の約7722億ドルに成長する見通しです。成長の主な要因はAI向けデータセンタ投資で、特にメモリとロジック半導体が大きく伸びると予測されています。

### ◆ 用途による二極化

'24年の世界半導体市場は前年比19.7%増の約6305億ドルでした。AIデータセンタ向け投資により、メモリやGPUなどのロジックが成長を牽引しましたが、自動車向けなどのAI以外は低調で、用途の二極化が目立ちました。

### ◆ AI関連以外も回復の見込み

WSTSは、大手IT企業などによるデータセンタ投資は勢いを増しているため、'25年もデータセンタ投資の拡大でメモリ・ロジックが高成長し、さらにスマートフォンやPCのエッジAI(端末でクラウドを使わずにAIがその場で処理・判断する技術)も成長に貢献すると予測しています。関税や地政学リスクはあるものの、各国の支援策により全体は緩やかな回復が見込まれます。

製品分野別にみると、'25年は、メモリが前年比27.8%増、ロジックが同37.1%増と大きく伸びる見通しです。そのほかのICも、アナログが7.5%増、マイクロが7.9%増と緩やかな成長、また、センサー&アクチュエーターが10.4%増、オプトエレクトロニクスが3.7%増と、'24年のマイナスからプラス成長に回復する見込みです。

### ◆ 2026年もメモリとロジックが牽引

'26年もデータセンタ投資が成長を牽引し、世界半導体市場は前年比26.3%増の約9755億ドルに拡大すると予測されています。メモリは39.4%増、ロジックは32.1%増と高成長が続くと予測されています。一方でWSTSは、地政学リスクなどの不透明感から、AI関連以外では大きな成長は見込んでいないとしています。

## HDDの動向について

### ◆ 市場規模

世界のHDD市場は2025年に数百億ドル規模で、今後数年間は成長が見込まれます。用途別では、エンタープライズ(データセンタ、クラウド、バックアップ、コールドストレージ)やニアライン、サーバ用途が成長を牽引しています。また、コンシューマ向けの内蔵、外付けHDDやネットワークストレージ用途でも、PCや家庭用ストレージ需要は根強く、安定的な市場が確保されています。

つまり、「HDDは終わった技術ではなく、大容量データ保存の中核として今後も重要であり続ける」というのが市場の見方です。

### ◆ なぜ需要が高まっているのか

大量データ(ビッグデータ、動画、画像、セキュリティ映像など)の生成・蓄積が増え、容量あたりのコスト効率の良いHDDの優位性が再評価されています。特に、AI/機械学習用途のデータセンタやクラウドバックエンドでは、高容量・低コスト・安定性重視という特性からHDDが採用され続けています。また、一度保存してアクティブにアクセスしない「コールドストレージ」用途(アーカイブ、バックアップ、監視データの保存など)においてもHDDは依然として主力のままです。

### ◆ 容量拡大と高密度化

最近のトレンドとして、より高密度・大容量の「ニアライン/エンタープライズ向けHDD」の需要が高まっており、これらドライブの出荷容量は今後大きく伸びると予測されています。ある予測では'24年の平均容量から、'30年までに倍以上(たとえば約 4.3倍、11TB → 47TB 相当)になるという試算もあります。

### ◆ 今後の見通し

クラウドやAI、バックアップなど大容量データとコスト効率が重視される分野では、HDD需要は今後も安定または拡大します。特にニアライン・エンタープライズ向け大容量HDDが中心になります。一方で、SSDの価格低下と性能向上により、高速用途はSSD、大容量保存はHDDという役割分担が、より明確になっていくと考えられます。

本年も本誌をお読みいただきましてありがとうございました。来る年が皆様にとって幸せな一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。